

小児急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群 (Muco-Cutaneous Lymphnode Syndrome, 略称MCLS)

診断の手びき

昭和47年度厚生省特別研究費によるMCLS研究班（班長：神前章雄）作成

（昭和45年度作成の手びきのうち、今回はB-6. の一部を削除、B-7. を追加した。）

本症は主として4才以下の乳幼児に好発する原因不明の疾患で、その症候は以下の必発症状と参考条項とに分けられるが、必発症状（5症状）のうち、1を含む4つ以上の症状を伴うものを本症として取扱う。

A 必発症状

1. 抗生物質に不応の5日以上続く発熱
2. 両側眼球結膜の充血
3. 四肢末端の変化：①硬性浮腫（急性期）②掌蹠紅斑または末端紅斑（急性期）③爪皮膚移行部からの膜様落屑（回復期）
4. 口唇、口腔所見：①口唇の乾燥、紅潮、き裂 ②舌乳頭腫大（莓舌様変化）③口腔、咽頭粘膜のびまん性発赤
5. 体幹の不定形発疹（ただし、水疱、痂皮は伴わない）

B 参考条項（必発症状と併せて、診断上大切である）

1. 拇指頭大以上の急性頸部リンパ節腫脹（ただし、決して化膿しない）
2. 下痢
3. 蛋白尿、尿沈渣中の白血球増多
4. 検査所見：①核左方移動を伴う白血球増多 ②赤沈促進 ③CRP陽性など
5. 時にみられる症状：①無菌性髄膜炎 ②軽度の黄疸、血中トランスアミナーゼ値軽度上昇 ③心炎、心筋炎 ④関節痛、関節炎
6. 4才以下に好発し、同胞発生をみない
7. 本症の致命率は約1.5%で、主な剖検所見は冠動脈の血栓性閉塞を伴った血管炎である

お 願 い

本症に合致する症例をご覧になりましたら、本研究班にご連絡下さい。

連絡先 東京都渋谷区広尾4-1-22(〒150) 日赤医療センター小児科MCLS研究班

(TEL: 03-409-2211)

または

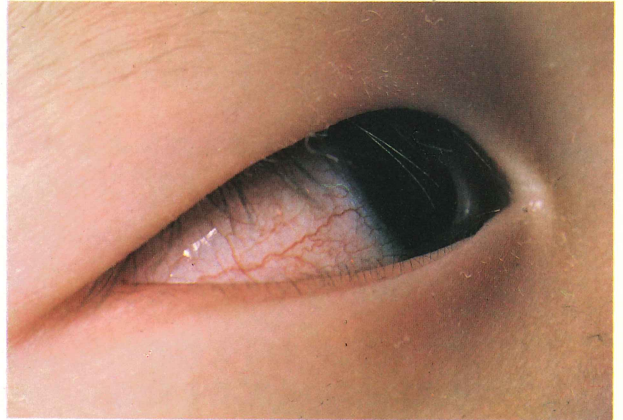
東京都港区白金台4-6-1(〒108) 国立公衆衛生院疫学部MCLS研究班

(TEL: 03-441-7111 内線243)

（裏面に本症のカラー写真を掲載してあります。）



▲本症の全身像



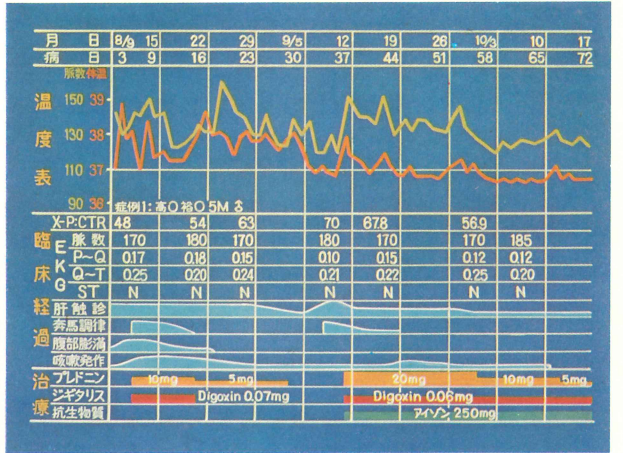
▲眼球結膜充血



▲定型的な指先の落屑



▲手掌紅斑および硬性浮腫(急性期)



▲本症の熱型(東京女子医大第2病院症例)